旭山動物園ニュース

モユク・カムイ

1

1981. 5

―創刊に当たつて―

動物園に勤務する飼育の諸君は，動物が好きで好きでたまらない人々ばかりです。見方によつては気違いじみているのかも知れません。14年勤続，9年勤続……と経験年数は様々ですが，動物を愛する気持は甲乙をつけ難い人たちばかりです。

よく人間は環境に支配されているといわれますが，飼育の人々の顔は極端に変化はありませんが，気持は飼育する動物に飼い主が左右されるのか，あるいは飼育される動物が飼い主に左右されるのか，日常の行動にそれぞれあらわれています。自分の作業衣が動物の排泄物，あるいは動物特有の臭いによつて汚れようと一向気にしません。四季の変り目や，暑さ寒さに気をつかいながら，また動物が病気になつた時は，夜遅くまで看病したり，時には泊りこんで面倒をみたり，死んだ時などは涙を流して悲しみ，満足に御飯が喉を通らないこともしばしばのことです。

動物園という所は，レクリエーション，社会教育，野生動物の保護及び研究という社会的役割を果しております。動物園の飼育の諸君には，健康な姿の動物を入園者にお見せするという大事な職務があります。どんな仕事でも裏方さんの役目は地味で人目につきませんが，大事な役目であると，私自身，日常痛感しております。生命のある野生動物の飼育管理は大変なことで，お盆も，お正月もありません。

このようなプロ意識を持つた人々が，日常の仕事を通じて，よく観察し，勉強した動物の生態，習性，エピソード等を整理して，皆様のお手もとにお届けします。

動物に興味のある方，これから動物についで見聞をひろげようとされる方はもちろんのこと，多くの人々が目を通されて，動物に対する正しい知識を身につけ，動物愛護の精神をつちかわれれば，私共の喜びと，はげみになることは，この上もありません。

旭山動物園長　小原　源隆

動物について考えよう――

動物学入門

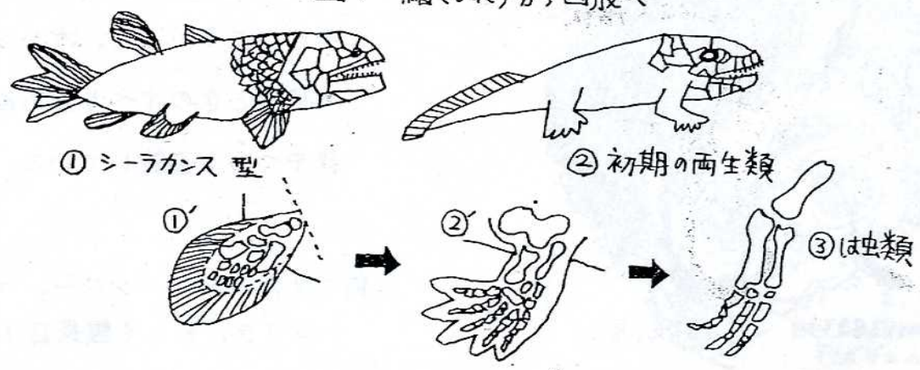
動物園では，世界中のいろいろな動物を数多く飼育しています。また，私たちのまわりに生活している身近な動物もたくさんいます。それらの動物たちは，じつにさまざまな姿，形をしています。首の長いキリン，鼻の長いゾウ，人間によく似たサルの仲間，トゲトゲのヤマアラシなどそれぞれに特徴がみられます。動物園で動物を観察する時，さまざまな動物の体のつくり（形態）が，どんな働き（機能）をするのかを注意しながら観ることはとても大切なポイントです。ここでは，いろいろな動物の体の「形と働き」について毎回一つづつ調べていきましょう。

その1　手足　（四肢）

ヒトでは対になつた上肢（手）と下肢（足），ヒト以外の哺乳動物では前肢（前足）と後肢（後足）に分かれます。また，鳥類では前肢は翼（羽根）に変化しています。四肢の起源は，魚の胸ビレと腹ビレといわれ，「生きた化石」として有名なシーラカンスのヒレには，肉がついていて手足のようにさえみえます。

それでは動物園で観られる動物（特に哺乳動物）の四肢について，それぞれの特徴を比較してみましょう。

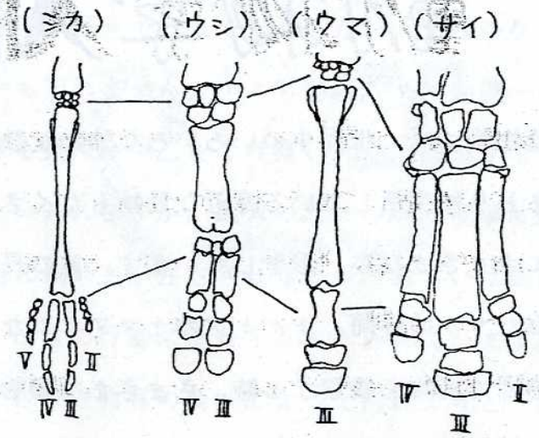
図1　鰭（ひれ）から四肢へ



(1) 四肢が，地上をはしる・あるくのにつごうよく変化した仲間は，体を支えるしつかりした足になり，その先には蹄（ひづめ）や爪が発達している。

例：カバ，キリン（偶蹄目）
サイ，シマウマ（奇蹄目）
ライオン，クマ（食肉目）

図２ 偶蹄目・奇蹄目の後肢



Ⅱ 第2指（ひとさし指）
Ⅲ 第3指（中指）
Ⅳ 第4指（くすり指）
Ⅴ 第5指（子指）

図3

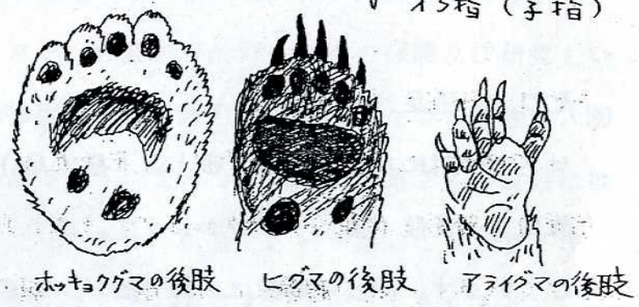
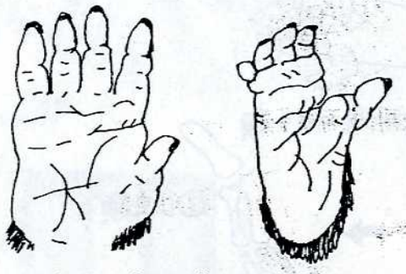


図4

ニホンザルの手のひらの紋

ニホンザルの指紋

図5



ゴリラの前肢（手）　後肢（足）

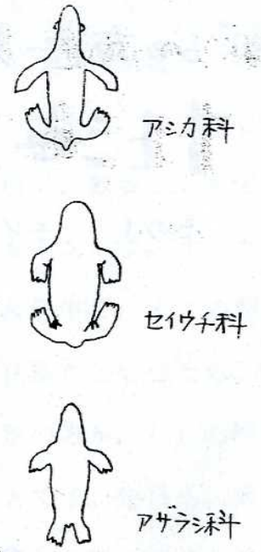
(2) 地上，特に樹上生活に適応した仲間で，四肢の先に５本の指が発達し，ものをつかむのにつごうがよく，木から木へ移るときのすべり止めに指紋やつめも発達している。

例：サル，チンパンジー，ゴリゴリラ，ヒト（霊長目）

(3) 四肢が泳ぐのにつごうよく変化した仲間で海に棲むものが多く，水をかくのにつごうよく魚のヒレ形に変つている。特にクジラの仲間は，体形までも魚形になつている。

例：アシカ，アザラシ（ひれ脚目）

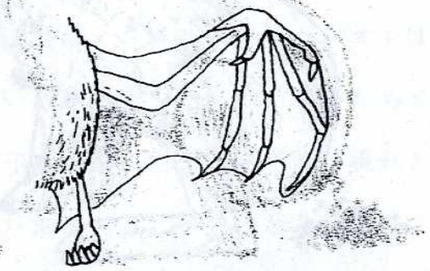
図6



(4) 空を飛ぶのに適した前肢をもつ仲間で，前肢の指が長くのび，間にうすい膜が発達して翼となり，はばたいて飛ぶことができる。

例：コウモリ（翼手目）

図7



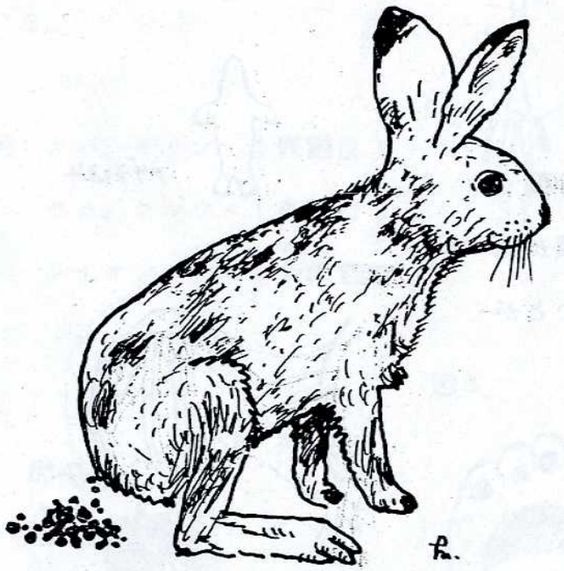
このように大きく四つに分けられますが，それぞれさらに細かく分けることができ，また中間の形や働きをする四肢をもつものもいます。また，土中に穴を堀つて暮すモグラなどの食虫類や，カワウソやビーバーのように水カキのある足を持つたもの，リスの仲間の足，有袋類の仲間の手足など手足だけをとつて観察してもいろいろさまざまなことがわかります。

－ぼくらの友達・身近な仲間－

北海道の動物たち

その１　エゾユキウサギ

Lepus timidus ainu



エゾユキウサギは，北海道だけに棲むノウサギです。夏の間は，茶褐色ですが，冬になると，耳の先端を残して，全身が雪のように白くなります。この毛換り，冬毛になるのは１０月に入つてからで，四肢から始まり背中まで完全に白くなるには，１２月中旬までかかります。夏毛になるのは４月頃から始まり，冬毛とは逆に背中から四肢へ向つて換つてゆきます。

出産は，５月～８月で，１度に２～４匹の仔を産みます。仔は産まれた時すでに目も開いていて，体毛も生えており，歩行すら出来ます。
まさに野生にふさわしい誕生と言えるでしょう。

エゾユキウサギは，北海道の草原や森林のいたる所に，数多く棲息していますが，人の目には，めつたに触れる事はありません。彼等は夜行性であり，日中は草藪の中とか，岩陰，倒木の下などで寝て過ごしているためです。もう一つは，聴力がすぐれていて，人が近づく音を素早くキャツチし，危険を感じ逃げてしまうからです。

旭山動物園では，飼育して，生態や繁殖の研究をしていますが，憶病なため，飼うのが難かしく，展示してお見せするのは，もう少し先の話になりそうです。

飼育日誌から

オナガキジの発情

春の訪れとともに，動物達で発情期に入るものが，数多くいます。キジの仲間もそうです。オナガキジが，今その真最中で，オスの飼育係への攻撃の狂暴さといつたら，ワシ・タカの猛禽類の方が，むしろ可愛いく思えるほどです。先日も，餌と飲み水をとり換えた際，強烈な跳び蹴りを一発くらつてしまい，手の甲に二ケ所切り傷を負わされてしまいました。

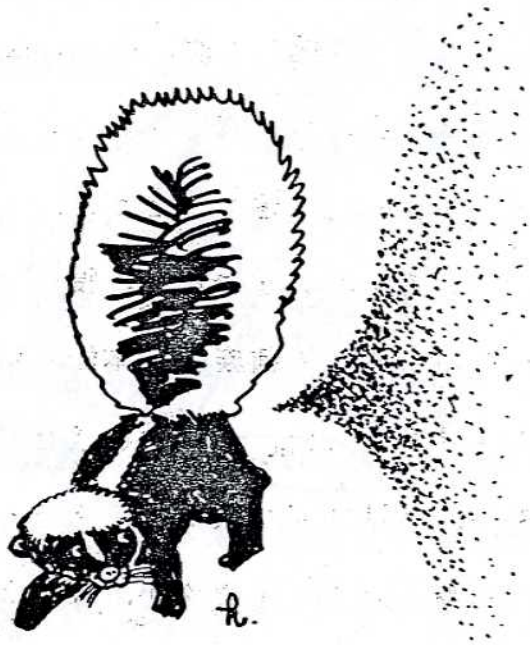
この時のオスの胸を張つた得意そうな態度は，二羽のメス達に「どうだ，オレは強いだろう，頼もしいだろう」，とでも言つているかのようでした。腹がたちますが，これも産卵期に入るメス達を，外敵から守るオスの種族保存本能の現れと思えば，我慢するよりほかなく，産卵の終る５月末までは，オスのひきたて役になる事も，飼育係の仕事と割りきる覚悟を決め，今日は何で来るか，クチバシでのツツキ戦法か，翼での連打か，それとも十八番ドロツプキツクか，などと対策に頭を悩ませながら，飼育を続けています。それにしても，いくら本能とはいえ，あの小さな身体で，数十倍の大きさの私に，向つてくる彼の勇気，根性には，感心させられる毎日です。

狂

牧田雄一郎，３３歳，サルに打ち込む事，１４年。全道に「サル一式の牧田」と称される。現在，ゴリラのマリ，ゴン太夫婦の世話役に没頭，彼等を結婚させるには，先ず自分から，と最近ようやく結婚した。いわく，「これで，こいつらに繁殖法を伝授出来る」。真にゴリラ狂である。

表紙のことば

モユク・カムイとはアイヌ語でエゾタヌキ(Nyctereutes procyonoides albus)のことをさします。タヌキの仲間は，オオカミやキツネと同じイヌ科に属しますが，他のイヌの仲間に比べ体つきがずんぐりとし，どこかユーモラスな感じを与えます。また，人をばかすとか狸寝入りをするとか　昔から人々に身近な獣でした。しかし，近年急激にその数が減つてきているようです。もつと大事にしたい獣の１つです。そんな訳で旭山動物園ニュースのタイトルを「モユク・カムイ」(エゾタヌキ)としました。



編集後記

ようやく，出来た。感想はこれだけ。旭山動物園誌を発行しようという話が出てから，２年。どうやら発行にこぎ着けましたが，チクと不満です。次回からは，獣医メモや投稿欄など，内容を充実させて行こうと考えております。そこでお願いですが，動物園に対する意見や動物に関する楽しい話題がありましたら，是非，投稿して下さい。読者欄は広く空けて待つています。

モユク・カムイ　No.1　　昭和５６年５月２０日

発行所　旭川市旭山動物園　〒078—11　旭川市東旭川倉沼
TEL　３６—１１０４

編集人　小原　源隆　　編集委員　小菅正夫　阿部　寛